

令和2年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業

「わかさわん子ども防災キャンプ」(R3.3.6(土)～3.7(日))

◆目的

・ 近年全国的に頻発している災害について、子供たちが必要な知識を得るとともに、一人一人が防災意識を高め、もしもの場合に備えて対応方法を実践、体験することにより、災害時の行動について考える機会にする。

◆参加実績

- 参加 小学生 11名
(キャンセル 1名)
- ① 男子 2名
女子 9名
- ② 学年別
4年生 4名
5年生 7名

令和2年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業

わかさわん子ども 防災キャンプ

わかさわんジュニア防災リーダーになろう！！

2021
3/6(土)～
3/7(日)
1泊2日

5/6 14:00受付

知ってる？小浜の防災！
防災食ってどんなもの？
避難所ってどんなところ？
炊き出し体験！

5/7 13:15解散

対象 福井県小浜市在住の小学校4～6年生 20名
申込多数の場合は抽選となります。
下記のQRコードから申込フォームで申し込みください。

参加費 1,400円

2/21(日)17:00〆切

お問い合わせ
国立若狭湾青少年自然の家
(福井県小浜市田島区大浜)
Tel 0770-54-3100
Mail wakasawan-sen@niye.go.jp
担当 吉田、小谷田、加藤

主催 国立若狭湾青少年自然の家
協力 小浜市総務部生活安全課、小浜市防災士の会
後援 福井県教育委員会、小浜市教育委員会(申請中)

◆ 個人情報「独立行政法人国立若狭湾青少年自然の家」が保有する個人情報の適切な管理に関する規程」等に基づき適切に管理し、この書類に関する書影のみに使用し、法令等に定める場合を除いて、第三者に開示することはありません。また、複製した写真や印刷物、感想文等を当該団体の事業に関するWEBサイト、広報資料に使用することがありますので、ご了承ください。



◆プログラム<1日目>

- ① 受付
- ② はじまりのつどい
・所長のあいさつ、スタッフあいさつ、活動の流れの説明
- ③ アイスブレイク
- ④ 小浜市総務部生活安全課より講義(講義、新聞スリッパ作り、防災食体験)
- ⑤ 防災キャンドル作り
- ⑥ テント張り体験

◆プログラム<2日目>

- ① 朝食作り(カートンドッグ)
- ② 防災士さんからの講義(講義、伝言ダイヤル体験)
- ③ 炊き出し体験(豚汁、おにぎり)
- ④ おわりのつどい



◆成果

- ・体験を通して、ろうそくが自分で作れることや火の起こし方、伝言ダイヤルがあることなど防災について初めて知る知識を理解することができた。
- ・災害時の避難の仕方や気を付けることなど自分の行動について知り、理解することができた。
- ・小浜市や地元の防災士の会と連携することで、子供たちはより身近に防災を感じ、学ぶことができた。
- ・小浜が水害の多い町であることを理解し、普段からできることについて考えることができた。



◆参加者の声

- ・防災キャンプで友達もたくさんできたし、防災で気を付けることもたくさん学べてよかった。
- ・非常食のイメージが変わった。
- ・ろうそくを自分で作れることを初めて知った。
- ・伝言ダイヤルで伝言を残せることを初めて知った。
- ・災害はいつ起こるかわからないから、日ごろから準備することができる。
- ・自分の身を守ることが大切だと思った。
- ・洪水の災害の時は、長靴ではなくて靴で避難した方がよいことを知った。



◆保護者の声（保護者アンケート）

- ・災害用の伝言サービスが体験できたのは初めてでした。家族と離れ離れになっても探す方法がある事を知り安心に繋がったようです。
- ・炊き出しの準備も、薪割りから経験でき、松ぼっくりや落ち葉がよく燃えることも分かり沢山学びがあった様です。
- ・普段の生活の中で、防災について家族でも話し合う機会を増やしていきたいと思います。



◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・野外炊事やキャンドル作りなど、体験をしながら防災を学べるようプログラム構成を考えた。
- ・防災の知識を詰め込みすぎず楽しく防災を学ぶことを意識して行った。
- ・プレイホールでの宿泊であったが、少し気温が低く寒さを感じる子どもがいた。
- ・小浜市の生活安全課や防災士の方との連携により、小浜の災害の歴史や防災食など、地域に密着した防災活動を行うことができた。



◆事業運営費	合計	59,439円
ボランティア経費（2名）		10,880円
消耗品費		43,093円
通信運搬費		1,176円
印刷費		4,290円

